

PRACTICE
NOTEBOOK **8** 方眼罫
8mm

アイヌ民族に
ついて

—アイヌ民族の歴史や文化—

方眼罫

8mm

34冊

==

CLASS

6-5

NAME

遠藤有馬

BRUNNEN

～はじめに～

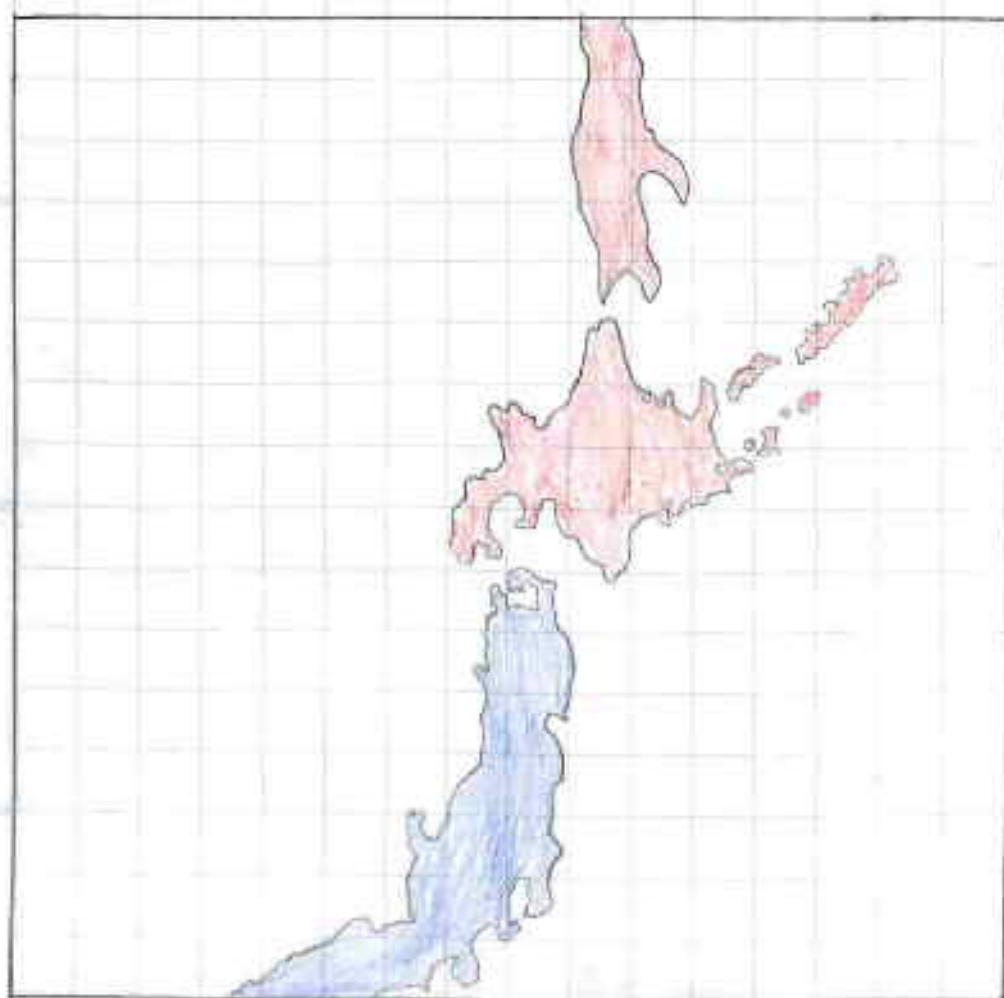
北海道民ならもちろん「アイヌ民族」のことを知っていますよね？
 ぼくは、「ゴールデンカムイ」というマンガを読
 んで、アイヌ民族に興味をもちました。あと、
 今年で、北海道命名150年ということもあり、
 テレビでアイヌ民族のことをやっていたこと
 もあり、アイヌ民族について調べてまとめま
 した。

～アイヌ民族、そもそも何？～

アイヌ民族とは、北海道を中心に、東京都周辺にも住んでいます。現在は、約20万人いるとされています。

もとは、北海道、樺太(サハリン)、千島列島やカムチャカ半島の南部に住んでいた少数民族です。

東北地方の方言に、アイヌ語由来の言葉が残っていることから、南下して、東北地方にも住んでいたのではないかと思われています。



青はアイヌが住んでいた場所
赤はアイヌが住んでいた場所

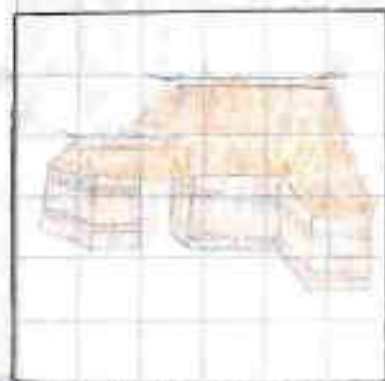
～アイヌ民族の特長～

- ・目はふたえが多い
- ・顔のりんかくは四角や長方形
- ・くちひるが厚い
- ・まゆ毛が太く、濃く直線的になっている。
- ・耳たぶが大きめで福耳
- ・鼻のほねが広く、高い
- ・歯は小さい
- ・口元が引きしまっている
- ・かみの毛は天然パーマ
- ・和人と比べるとせが低い
- ・ほりが深い

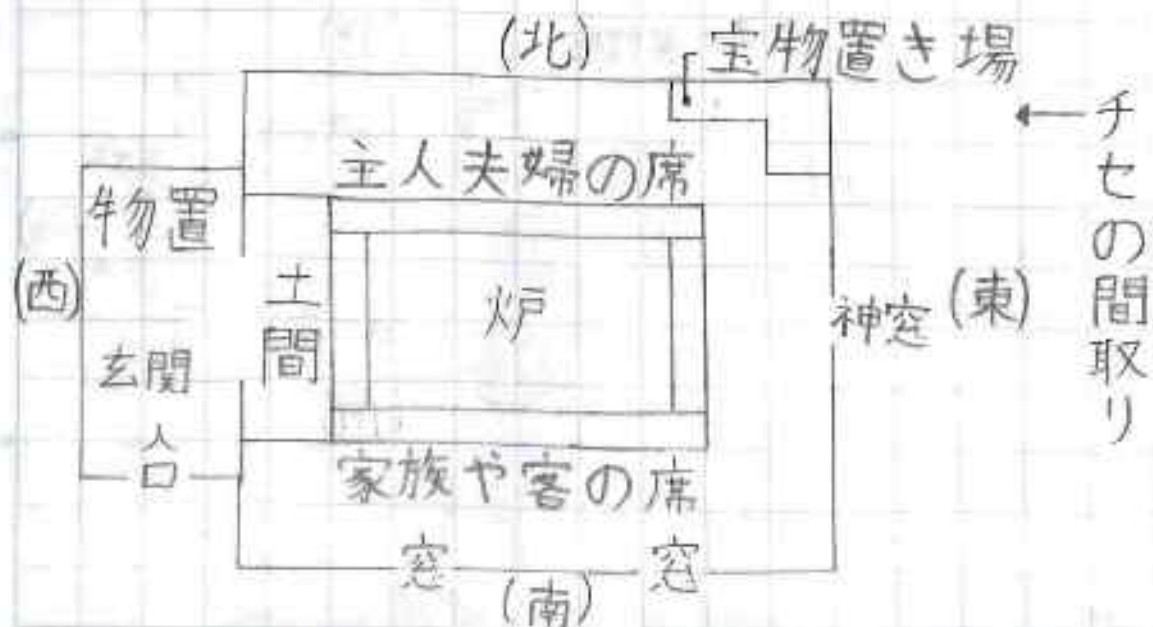
～アイヌコタンについて～

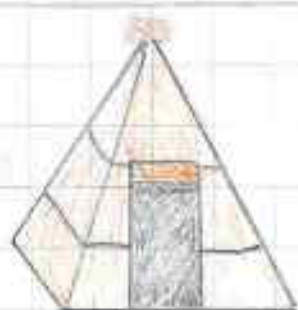
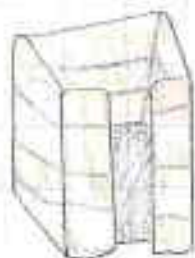
アイヌ民族は、コタンと呼ばれる村に住み、チセと呼ばれる家に住んでいました。ここでは、コタンに建てられた建物を紹介します。

チセ (家)



- ・右から順に、木の皮を使、たチセ、ササを使、たチセ、アシを使、たチセです。





左がオッ、カヨル(男用の便所)
右がメノコル(女用の便所)

高床式倉庫を使
ていました。

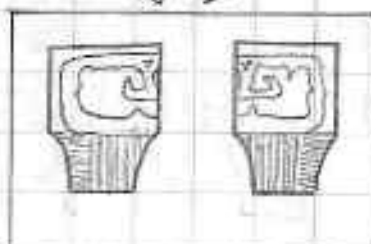


← 儀式のための祭壇

～アイヌ民族の服装～

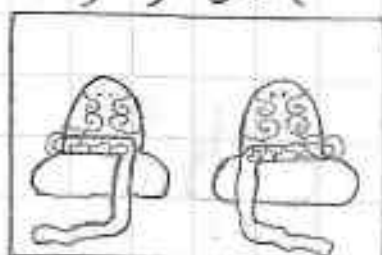
アイヌ民族は、色々な衣服を着ていました。
ここでは、アイヌ民族の衣服を紹介します。

ホシ



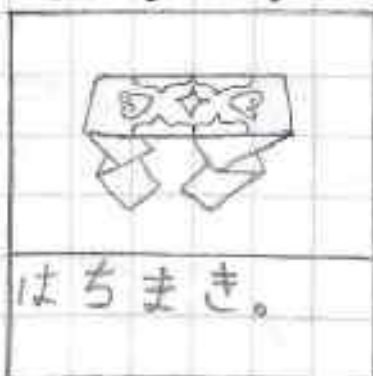
きゃはん。
すねあて。

テクンパ



手甲。
手につけた。

マタンパシ



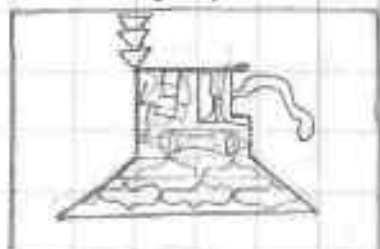
はちまき。

ユッケレ



しかの皮で
きたくつ。

コンチ



ぼうし。

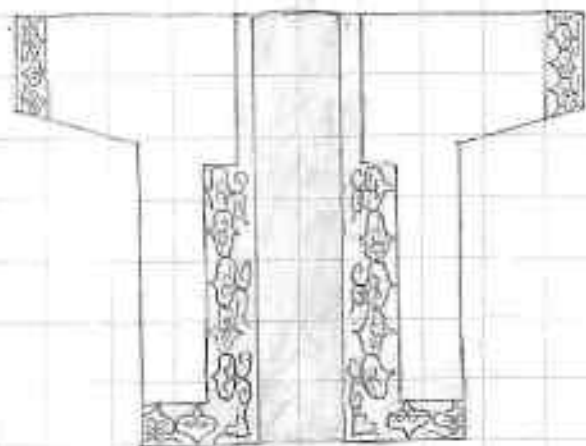
クッ



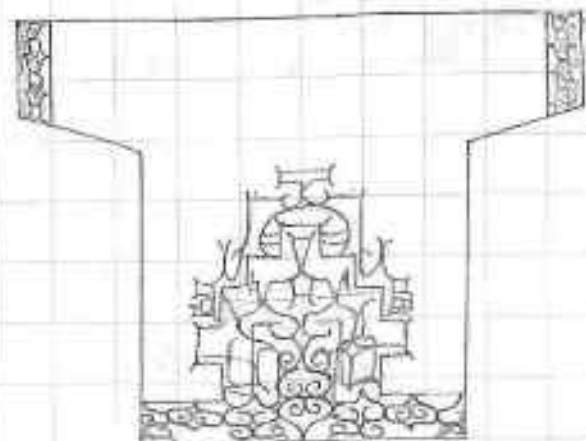
おひ。

アットゥシ

表



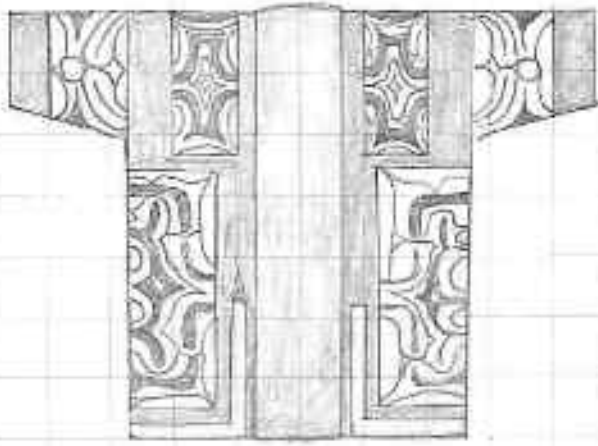
裏



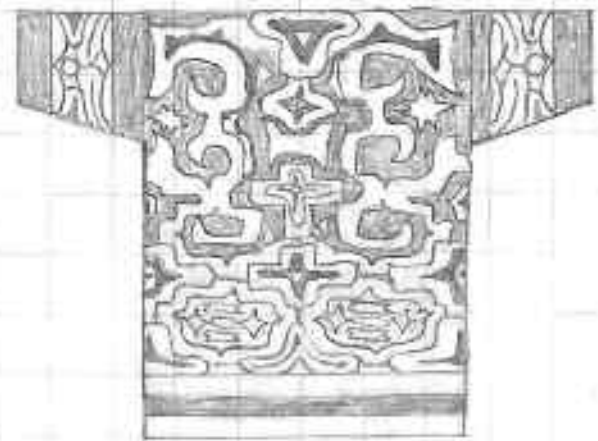
- ・ 樹皮衣
- ・ オヒョウという木の
せんいで織られた衣
服

カバラミフ

表



裏

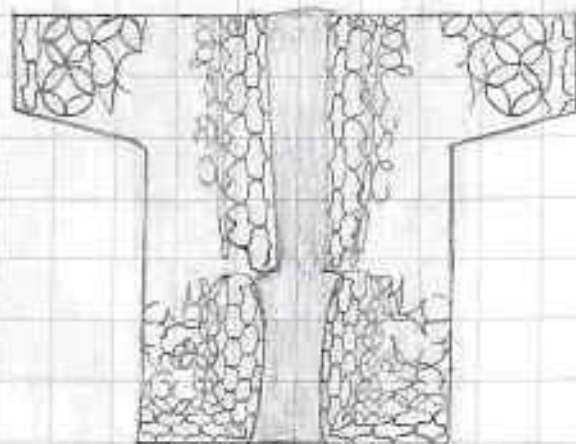


- ・ 木綿衣に文様を切り
抜いた白生地をアッ
プリケしたもの。

チンチリ(チチリ)

ウル

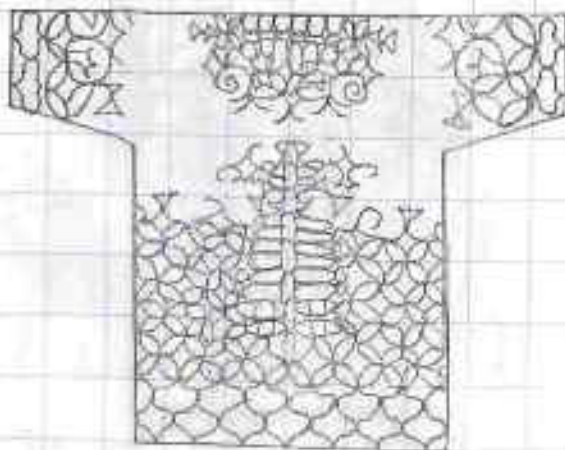
表



表



裏



裏

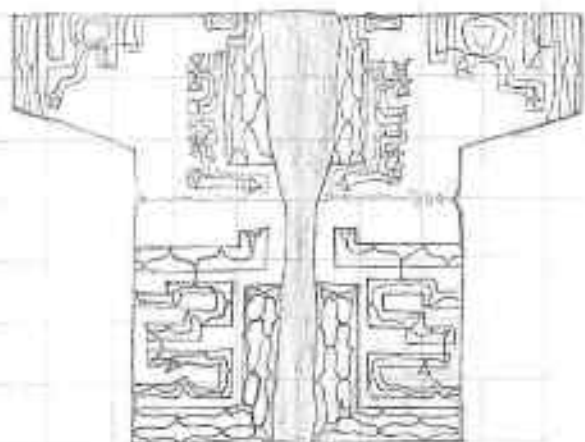


・黒の木綿衣に直接し
 しゃうをほとこした
 もの。

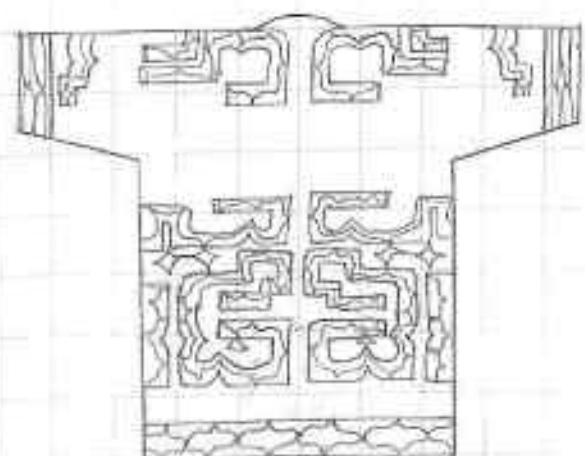
・獣皮衣
 ・獣の皮で作った衣服
 ・上の絵はアサラシの
 皮

チカラカラパ

表



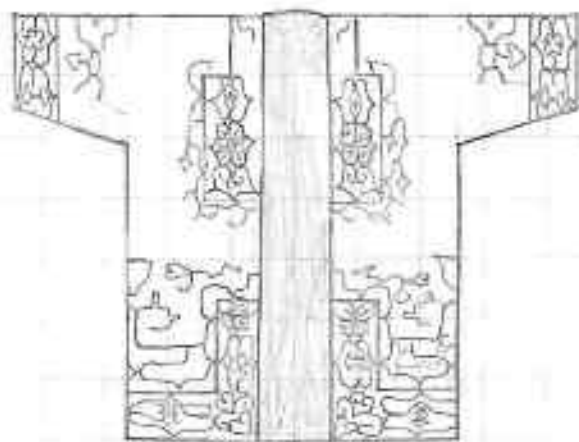
裏



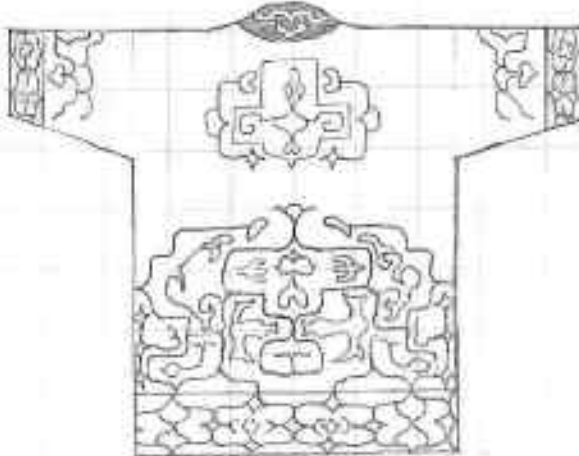
- ・木綿のしま織物に黒
や紺の布をぬい止め
その上にししゅうを
したものを、わかいのが
・白布を、わかいのが
大きな特長

テタラペ

表



裏



- ・草皮衣
- ・イラクサのせんいで
織られた服
- ・樺太アイヌの衣服

チカアウル

表



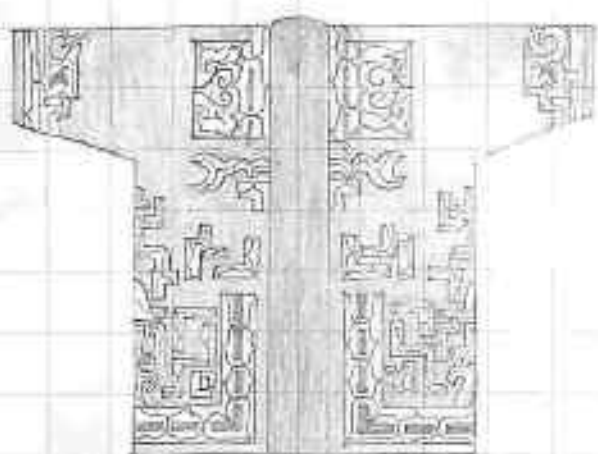
裏



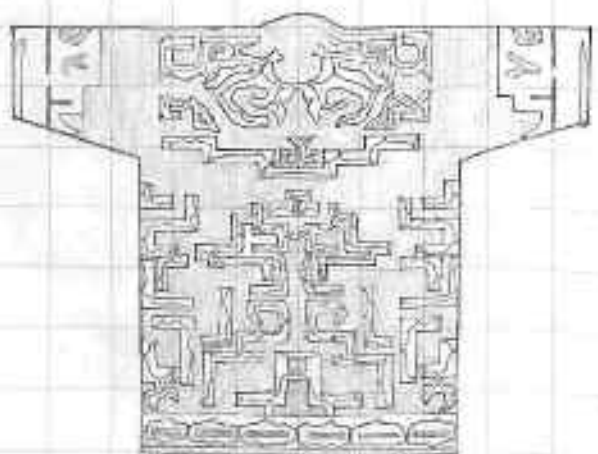
- ・鳥皮衣
- ・ウトウ、ツノメドリ、エトビリカなどの海鳥の羽毛皮を合わせたもの

ルウンパ

表



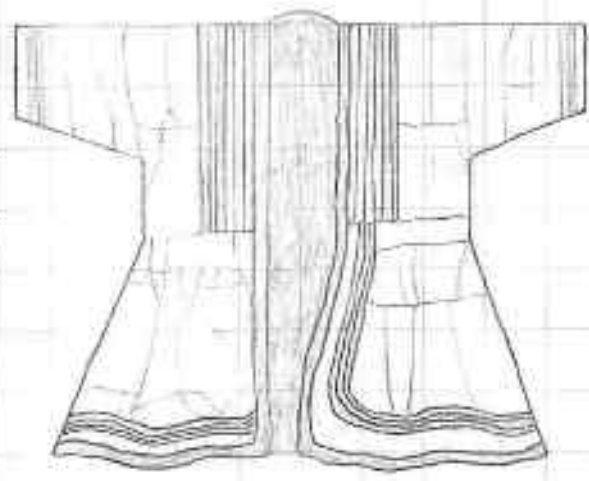
裏



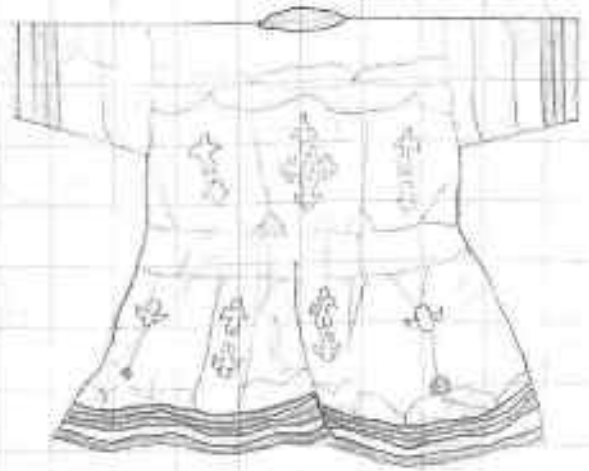
- ・いろいろな色の細長い布付を木綿の服の上にくみ止めたもの

ナエプル

表



裏



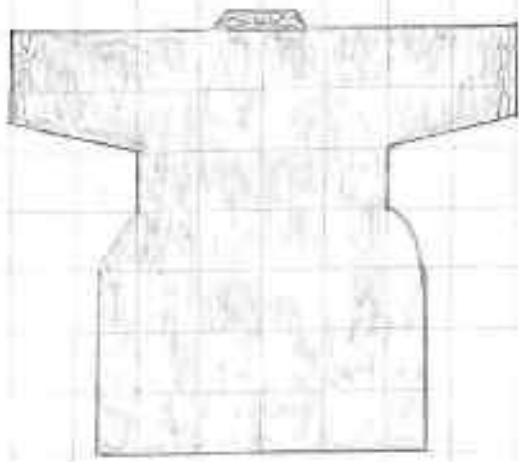
- ・魚皮衣
- ・サケ、マス、イトウなどの大型の川魚の皮で作った服

モウル

表



裏



- ・女性が家こきしていた木綿衣
- ・外出するときなどはこれをまて紹介した服を着た。

アイヌ民族の歴史

アイヌ民族は、昔から北海道に住んでいました。

アイヌ民族の歴史を見ていきましょう。

第一章 中世のアイヌ民族

～①ひろがる交易　さまざまの国や民族～

北海道に人が来たから、すい分長い年月かた
ちました。石器時代、縄文時代、縄文時代へ
文化とオホーツク文化が共存していた時代へ
と進みます。和人から、エミシヤエゾと呼ば
る東北地方の集団の中にも、アイヌ民族の
祖先が活躍し、13世紀に移り、てゆきま
す。このころになると、アイヌの人たちの文化が
見えるようになります。ていきます。
13世紀、アイヌの人々の活動はんいは交易す
ることにより、ほとんど広がり、ていまま
和人との交易にととまらず、北は樺太を
中国のアル川をさしかのぼって、中方
北部の人たちの相手は、カムチャツカ
た生活の中心は、狩猟漁業などをして
栽培を中とします。狩猟農そ
か。ていていす。そをに
加えて、交易も

た。アイヌの人たちの経済生活には欠かせないものになっ、ていました。

アイヌの人たちが直接、イタオマチャという船に特産品を積みこんでアムール川の方まで交易に行、ており、これは長い間続けられてきました。アムール川での交易相手は中国の明です。明はアムール川下流域でそこにいた先住民族を支配するために、永寧寺という寺を建てました。アイヌの人たちはこの寺の近く、^{みつきもの}又ルガン郡司という場所に行き、貢物を納めるとい、う形で、明の品物を手に入、れてい、ました。

13世紀のはじめにモンゴル帝国をたてたのは、チンギスハーンですが、その孫のフビライハンの時代は、元とい、いました。1264年からこの元とアイヌの人たちの40年間にわたる戦いがありました。

13世紀には、南樺太にアイヌの人たちが定住するようにな、てい、ました。

～②アイヌの人たちと鎌倉幕府～

大東を、和と人た。そ
 和北余、で、和と人た。そ
 朝地儀自由簡
 廷方なくに単
 加にさ行に
 勢住さ行に
 カんをき手
 をてて来を
 東いいまです
 北いたまてす
 にアいまきこ
 拓イた。かか
 大又の津かか
 すの津たき
 る人軽たき
 いた海北ま
 つち海峡海せ
 老はの道に
 て、服せいは、
 従いには、
 せいにし

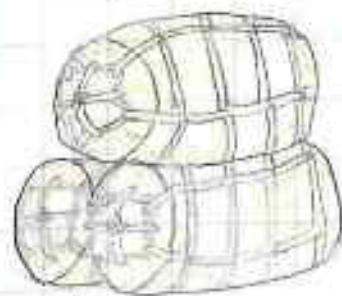
原族。開はに潮藤犯うた。よ
 清豪すさ権手三安さいしおさ
 氏くま府実。子た罪とこをか
 氏じけ幕のをのいいす事うま
 倍同上倉府で島て重流仕、さ
 安にき鎌幕半し。にもき事
 の後築、倉森輕には、道理い仕
 族、さは、鎌青津地氏海管えの
 豪が力のの、後、北、海、道、は、
 は、た勢た後、方、加、根、安、島、そ、道、は、
 に、ま、一、ぼ、そ、の、北、条、漢、た、美、こ、北、の、は、
 方、し、が、ろ、す、東、北、三、し、蝦、つ、か、た、の、は、
 地、は、氏、ほ、す、の、年、ま、一、氏、な、す、海、道、に、す、又、ち、鞆、北、
 北、伸、原、を、こ、り、そ、る、し、を、の、藤、な、で、北、海、道、に、す、又、ち、鞆、北、
 東、を、薩、氏、朝、移、り、あ、に、ち、事、安、に、ら、か、は、理、し、が、又、ち、鞆、北、
 ろ、カ、州、原、頼、に、す、に、来、た、仕、ら、う、か、は、理、し、が、又、ち、鞆、北、
 こ、勢、襲、藤、源、氏、ま、岸、家、人、も、か、よ、た、氏、管、た、ア、氏、人、た、
 の、か、の、そ、い、北、収、の、氏、し、こ、早、ほ、て、安、人、和、す、安、又、
 の、か、の、そ、い、北、収、の、氏、し、こ、早、ほ、て、安、人、和、す、安、又、

※服従…相手の言つとおりになつて、おとしくすること

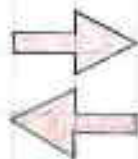
シンタ。タ。方ア益る
 ラコし品。た。手は利を
 ガにま易地。した。岩氏なは
 ア花り交布しま、藤き呼
 コ、そあいやしや、安大と
 ッと物珍、か秋た。て、
 ラな産のけ、交、し、た、
 な羽海らか、ず、ま、よ、
 量のなれことと、まら、い、
 貴力富こことと、まら、い、
 く、夕豊、まなと、まら、い、
 し、皮、の、は、湊、品、と、か、
 珍毛な、た、十、鉄、森、に、出、
 は、の、ゲ、人、で、酒、青、自、
 て、ど、ザ、の、人、で、酒、青、自、
 し、か、乾、又、積、酒、は、も、
 と、ン、ヤ、ア、イ、に、積、酒、は、も、
 時、テ、ブ、ア、イ、に、積、酒、は、も、

交易

和人



米



アイヌ



乾ザケ



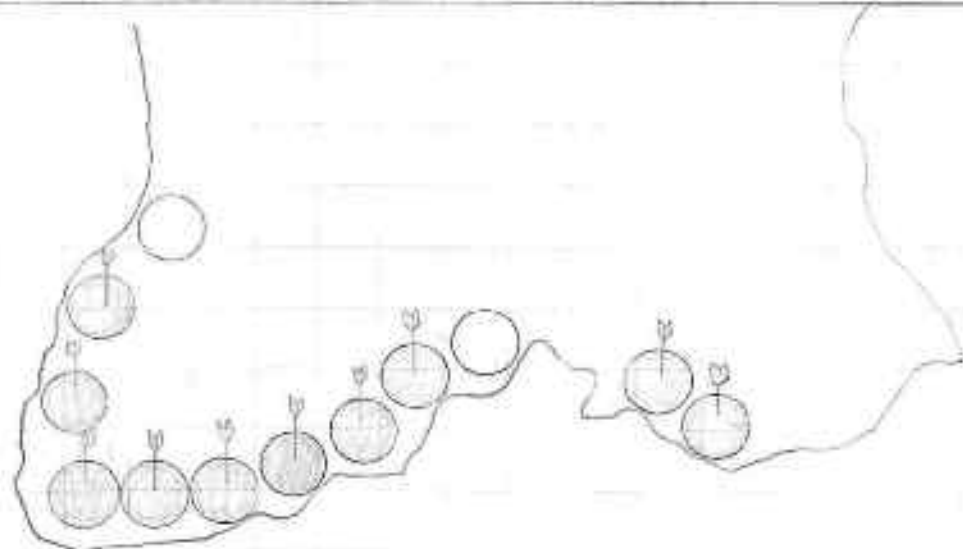
タカの羽

など...

～③コシャマインの戦い～

15世紀になると北海道の南部で、は和人が数か
 増えた。そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 す。そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 さく、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 て、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 あ。た、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 小刀、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 なり、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 いう、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 この、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 を、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 戦い、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 ま、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 ちは、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 の、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 戦い、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 た、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり
 手、そのとき、北海道の南には、力が強く、のなり

↓ 落とさせた館と落とさせなか、た館



津軽海峡

下北半島

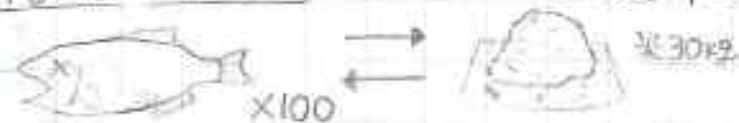
○は、落とさせなか、た館

⊖は、落とさせた館

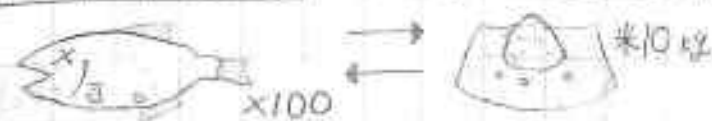
たのです。つまり、松前藩の財政のほとんどは、アイヌの人たちとの交易でまかなわれていました。

アイヌの人たちも、和人から渡った品物が必需品になり、宝物になり、たりするのと同じように、アイヌの人たちと交かんで得た品物には価値がありました。商人たちは、その品物を大坂(大阪)や江戸(東京)などにもどして売りさばき、はく大な富を得たのです。商場知行制により、松前藩は、アイヌの人たちとの交易の独占をより強め、さらに、交かんとする品物の交かん比率を一方的に決めて、アイヌの人たちにと、て不利なものにしてしまいました。

1648年ごろ サケ100匹と米30kg

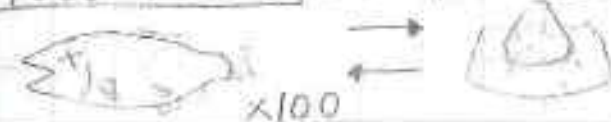


1669年ごろ サケ100匹と米10kg



【ツェツェインの戦い(P20~P21)の後】

1688年ごろ サケ100匹と米18kg



~② シャクシャインの戦い~

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

松前藩の幕府は、1669年、アイヌの人たちを対峙させ、シャクシャインの戦いを起こした。この戦いは、アイヌのリーダーが、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。その後、アイヌの勢力は、松前藩の地を侵襲し、幕府の対応に不満を覚えた。

～③和人の商人たち～

濟あかさまき所にいはいに
 経は人金れ易場金ア後人
 幣で商借こ交、税、以商
 貨調のたさ、ら、の
 は順はそた。たさ、かか人
 ではちてしてこ先れれ和
 会済たがま。はそそ加
 社経臣やり行すち。手
 人の家な接またすた相
 和藩やり直り人まし易
 、前主なうとな商めま交
 と、松藩によちに。さきの
 る、うむたうす。おてと
 なかた。よし人よまさ。ち
 にすしる苦のるい釜やた
 ろまですに又せい望に人
 ごしんきとイ任と違ンのす。
 紀達せ釜こアに制るタ又ま
 世発ま福す。人賛たコイリ
 18がりら返で商請あ又アな
 アそのりはちそ易人す。ア
 又またのイす。め漁
 場
 又のアイ夜やら
 人アイの別さ
 ちののた
 右ののた
 活ち働自
 生たくなれ
 の人なれ
 の人なれ
 大、さた
 ははか分
 活ち働自
 大、さた
 き商人の
 変のあ生
 利る活
 ね、益いさ
 中、大遠持
 こ、益いさ
 初、たうた人
 最、しい人のす。ては、な
 は、生るかイき産かう
 人かすろアつ生るよ
 商ちんこ、えかこる
 たたかたと考ちのれ
 き人交。うさたこね
 てのてた。そと人、使
 や、又所しやこのか、て
 や、アたいをせイしと
 に、アたいをせイしと
 ンリ。て益かアま手
 タう貴、利働、いき
 コとけととては、働
 ので請さ、場て、の働
 たも、漁ま行ち
 又のアイ夜やら
 人アイの別さ
 ちののた
 右ののた
 活ち働自
 生たくなれ
 の人なれ
 の人なれ
 大、さた
 ははか分
 活ち働自
 大、さた
 き商人の
 変のあ生
 利る活
 ね、益いさ
 中、大遠持
 こ、益いさ

るため、の食糧の確保が、かしくなつてゆき
 ます。の貸金は、出しました、ととも少なか
 たのこの遊、畿地方では、綿花栽培に使う肥料に
 本州の遊、畿地方では、綿花栽培に使う肥料に
 二シンの遊、畿地方では、綿花栽培に使う肥料に
 海産物は、と代は、アイヌの労働力
 のこの時代は、アイヌの労働力
 のこの時代は、アイヌの労働力
 和人の貨幣の人は、アイヌの労働力
 とアイヌの人は、アイヌの労働力
 成り立、ていた部分が大か、たのこす。

～④北箭船と商人～

の今使商人の組み返す請け働き夜ま
 は、さの(滋賀藩)に積ました。朝から
 多くの船と船に、商人たち朝
 の商人(滋賀藩)は、商人たち朝
 地す。商人(滋賀藩)は、商人たち朝
 身て江前、松前、北前、商人たち朝
 出県送松前、松前、北前、商人たち朝
 の川、松前、松前、北前、商人たち朝
 員石に、松前、松前、北前、商人たち朝
 船、松前、松前、北前、商人たち朝
 や県、松前、松前、北前、商人たち朝
 主井人、松前、松前、北前、商人たち朝
 船福商、松前、松前、北前、商人たち朝
 のやの、松前、松前、北前、商人たち朝
 船県か、松前、松前、北前、商人たち朝
 前賀多、松前、松前、北前、商人たち朝
 北滋て、松前、松前、北前、商人たち朝

人負請所場
 二必宅

たため木とイす請
 通。初材人アます請
 のす。場所も、元経
 名、(武)商人、松前、北前、商人たち朝
 特に、(武)商人、松前、北前、商人たち朝
 中、(武)商人、松前、北前、商人たち朝
 て、(武)商人、松前、北前、商人たち朝
 の川、(武)商人、松前、北前、商人たち朝
 商人(武)商人、松前、北前、商人たち朝
 商人屋、松前、北前、商人たち朝
 大、松前、北前、商人たち朝
 負、松前、北前、商人たち朝
 請、松前、北前、商人たち朝
 を、松前、北前、商人たち朝
 場所、松前、北前、商人たち朝
 場、松前、北前、商人たち朝

献していただきます。

～⑤クナシリ・メナシの戦い～

求部そ和ウ人起
 追東は。アを帰。
 蓋道は。シ件け
 利海ちこシ口事逃
 の北たそこたいう
 人、一、て、い、れ、
 商か、一、て、い、れ、
 力、す、一、て、い、れ、
 勢、ま、り、て、い、れ、
 の、い、又、持、こ、獵、害、に、し、も、た、根、と、キ、ま、て、の、着、地、
 人、て、い、又、持、こ、獵、害、に、し、も、た、根、と、キ、ま、て、の、着、地、
 和、外、の、ア、カ、お、ラ、ッ、考、人、あ、り、ア、シ、ン、サ、ー、を、す、と、に、の、た、人、が、矢、は、合、
 る、外、の、ア、カ、お、ラ、ッ、考、人、あ、り、ア、シ、ン、サ、ー、を、す、と、に、の、た、人、が、矢、は、合、
 中、ま、島、こ、カ、島、イ、ア、う、う、に、よ、ク、に、リ、こ、し、て、幕、口、懸、や、と、ち、に、の、ち、
 紀、す、ま、と、振、ろ、の、勢、ア、ア、う、う、に、よ、ク、に、リ、こ、し、て、幕、口、懸、や、と、ち、に、の、ち、
 世、ま、と、振、ろ、の、勢、ア、ア、う、う、に、よ、ク、に、リ、こ、し、て、幕、口、懸、や、と、ち、に、の、ち、
 18、は、や、の、人、ル、が、こ、た、こ、手、の、す、箇、の、商、の、か、ま、な、松、う、又、ま、の、又、

漁しもた、支立たちシノ工戦みより、ま
 の、商人の、室にいたメキノのろしと戦
 くの、又の、(根)制て人・キこをさる
 遠り、人アイ、地方の、加、こい、度、よ
 した、和アイ、地、人の、加、た、ツ、ツ、
 離、も、自、和、限、て、「ク、ナ、に、た、得、し、な、処、力、に
 き、撃、臣、も、た、。、自、和、限、て、「ク、ナ、に、た、得、し、な、処、力、に
 引を、家、ち、し、岸、加、復、を、い、の、戦、て、。、と、強、く、の、た、。、
 ら、妻、の、た、こ、対、ち、我、い、戦、こ、せ、回、前、藩、を、た、ま、
 か、瀋、師、道、の、た、う、ま、の、戦、こ、せ、回、前、藩、を、た、ま、
 子、り、前、漁、非、そ、の、た、う、ま、の、戦、こ、せ、回、前、藩、を、た、ま、
 妻、た、松、の、は、と、の、も、る、こ、す、い、ま、て、に、は、松、引、の、な、り
 に、い、た、。、和、人、い、は、と、の、又、た、な、す、。、ま、て、に、は、松、引、の、な、り
 め、こ、し、く、和、後、島、又、た、な、す、。、ま、て、に、は、松、引、の、な、り
 た、を、ま、働、ふ、の、ア、ま、非、い、と、参、る、キ、し、の、指、ア、最
 る、連、し、こ、の、年、帯、加、す、を、戦、道、鼓、し、ま、い、た、。、
 せ、に、り、こ、へ、1789一、上、で、人、の、は、を、す、と、の、ま、こ、
 か、場、た、そ、ち、1789一、上、で、人、の、は、を、す、と、の、ま、こ、

三ノモ 請負人、石橋某

西部ぶさの死る死
 西欲出も病へめ
 は、強、に、る、こ、食、た
 に、非、満、前、何、さ
 詩、の、も、腕、歳、は、実
 物、某、事、三、十、四、者、と
 人、橋、食、中、り、る、え
 夷、石、か、よ、た、飢
 蝦、人、に、お、歳、い、も
 世、負、ち、は、30、老、ら
 逸、請、た、た、な、や、子
 の、人、ま、み、子、の
 著、所、の、杯、筋、そ
 ・場、又、一、す、
 郎、遠、イ、采、れ、う、い、
 四、(久、ア、玄、ら、ま、な、
 武、ッ、日、え、し、か、
 浦、ド、を、一、等、こ、の、
 松、ク、リ、す、も、し、も、

んでしまうので、人口が減、こしまう。そこで、役所に菌類を誘え出ても、私嶺(石橋)の場所なので、取り上げもせず、世話もせず、捨ておかれる…というふう^に書かれています。

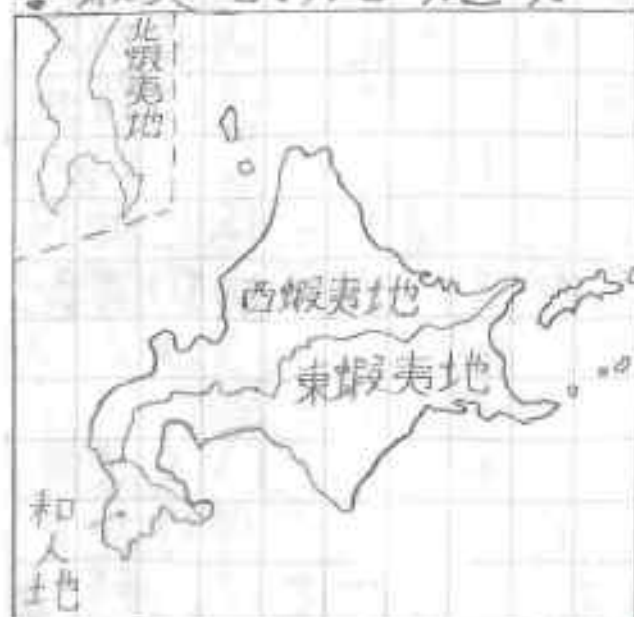
⑥強まる江戸幕府の蝦夷地支配～

幕府が蝦夷地を直接支配するようになった。この原因は、ロシアの南下という事から、戦いの原因は、高価な毛皮(ラッコの毛皮)の需要のため、船でやってくる人が大きくなった。幕府は二度の蝦夷地支配をします。一度目は、18世紀末(1799年)から19世紀初頭(1821年)までの欺間です。二度目は、19世紀半ば(1855年)から幕末(1867年)までの欺間です。幕府のやり方は、松前藩はアイヌの人たちを和風化する事で、アイヌの人たちを和風化すると、和人側の不正を逆に見え、幕府化すること、蝦夷地全体は江戸幕府の支配下にあることをロシア側に強く印象づけようとしたのです。特に口シヤ船外(東蝦夷地)や、ロシア人の居住地と続き(北蝦夷地)は、積極

的に和風化が進められました。ちなみに幕府の蝦夷地直轄は財政負担が大きいことや、シブの南下も脅威にはならないということか。て、1821年、松前藩に返したのです。これまた蝦夷地と和人地という、アイヌの人たちと和人との住み分けがあったのです。このころになると、莫地の方の漁場を働く和人が以前よりも増していきました。それらの商人の下で働く和人たちのアイヌの人たちに対するふるまひにもひとつの加えがありました。和人の増加により、それまでアイヌ社会にはなかつた伝染病なども持ちこまれてしまいます。天然痘などの病気がやり、アイヌの人たちの人口が減りました。

アイヌの人たちの人口が減ったところ

↓ 蝦夷地の地域区分



	1804年	1854年
後志	2871人	1577人
石狩・天塩	3120人	1613人
釧路	2138人	1515人
根室	1370人	581人
千島	1765人	602人

~⑦強まる江戸幕府の蝦夷地支配 その2~

は、藩とわたりた探アイた、藩まえ
 ち前族輩かいたのアイた、す、まえ
 た松民をわて地の取、ら松た
 人たに源かあ、夷す。みわか
 のきの資とあ、蝦夷す。かか
 又で^い蘆やこに、とをかかう、
 アイ^こ徹地打ちか、この格もは道
 ア^ここ、土い打人の格もは道
 に入りて、わわ仕和はのるにわ非
 うに^よらさどい半郎あ、そと
 よ当に^け取ひと世武人まの
 た不人^つ種な^郎19世浦和しまち
 きに^商徳^でう^四松かおた
 て^{*}シ^府を^まよ^武す。は^郎か^を人
 見^シ府^リ力^の浦^まち^四郎^を人
 こ^モ幕^の勤^こ松^りた^武協^力商
 ま^又戸^の勞^動こ^松り^た武^協力^商
 花^ア江^てを^ます。ろ、^に人^の探
 こ^アや^しを^ます。ろ、^に人^の探
 こ^アや^しを^ます。ろ、^に人^の探

まいをの地理
 さ^ら実^録川^日誌、
 は、かの地山^論した。も^の明^す。
 郎人そ夷夷^最まか、う^あり^は、
 四和^の蝦^夷理^しな^かよ^もた^ちの^行
 武加^りの^西地^残き^経も^さな^悪
 たち知^度東^川を^こを^経も^さな^悪
 た^ち知^度東^川を^こを^経も^さな^悪
 め^たさ^六色^山物^行日^月と^明か^の漁^な
 止^人と^六色^山物^行日^月と^明か^の漁^な
 け^のこ^た、^夷書^刊月^と明^かの^漁
 受^又る^し誌^西と^り、^長見^て、^人さ^まざ^ま
 に^イこ^いま^日東^な人^をよ^商
 刺^アこ^いま^日東^な人^をよ^商
 眞^これ^記蝦^夷物^害た^の物^臣に^対
 を^所さ^き航^人防^し日^書家^ち
 と^場者^書誌^夷の^まに^のと^た
 こ^な合^て、^日蝦^夷の^まに^のと^た
 の^まに^字え、^日蝦^夷の^まに^のと^た
 そ^のま^に字^え、^日蝦^夷の^まに^のと^た
 そ^のま^に字^え、^日蝦^夷の^まに^のと^た

※アイヌモシリ…人間の静かなる土地を意味するアイヌ語

四郎がアイヌの人たちに驚おたていたことは、
いふまでもありません。武四郎は、人間的な
まなざしで、アイヌの人たちを見ることのて
きた和人の代表格でした。

第三章 アイヌの人たちと明治維新

～①松前藩・江戸幕府から明治維新の支配へ～

アイヌの人たちの生活が、明治維新によ。て
 とのようにな化してい。たのてし。う。松前
 藩や商人、江戸幕府の支配は、1867年に終了
 します。1868年、新しく明治政府(明治時代)が
 立ち上がり、よく年、蝦夷地は、松浦武四郎
 によ。て「北海道」と名づけられ、蘭拓使が置か
 られます。明治政府はアイヌの人たちと条件も
 結ばず。契約もせず、一方的に北海道の広大
 な土地を、無主の地として官有地に組み
 こめさせます。アイヌの人たちは、書き
 付けなとさす。慣がなく、土地なとさ
 所有しな。伝統的なやり方で、自分た
 ちの土地を共有して經營していたてす。
 開拓使はさまな規則や条例を作。て、ア
 イヌの人たち土地をとりあげていきま。す。
 「北海道土地売貸規則」、「地所規則」、「北海道地
 券発行条例」、後には北海道庁により、「北海道土
 地私下規則」、「北海道国有未開地処分法」なとて

す。官有地にさ。たアイヌの人たちの土地には、
 官有地兵や没人の家やアイヌの日本全土か。ら
 宅田きた和資の家主、会社や植組などへ
 て人けら。た。

明治	に	な	て	す	く	に	、	戸	籍	加	つ	く	ら	我	ア	イ
又	の	ち	も	日	本	名	、	名	の	る	よ	う	に	強	制	ア
ま	人	も	日	本	に	組	、	人	我	ら	我	た	の	制	す	さ
す	の	も	国	民	に	ら	、	ア	ア	イ	又	の	人	す	と	に
す	の	も	加	の	に	式	、	イ	イ	方	を	主	と	こ	し	
した	日	政	府	の	正	別	言	呼	呼	方	を	し	と	こ	し	
手	本	府	以	後	長	い	な	別	方	続	き	た	こ	と	と	
府	そ	も	、	そ	の	又	間	タ	か	か	ら	た	こ	と	と	
人	て	人	と	は	平	等	の	こ	は	な	か	た	こ	と	と	
の	と	あ	か	り	ま	す	。あ	る	は	本	語	禁	止	同	然	
・	ア	語	文	化	の	あ	ち	日	は	語	禁	止	同	然	り	
さ	に	ア	又	の	そ	は	ア	又	イ	止	の	の	た	と	と	
こ	ま	ま	イ	そ	に	い	ア	生	も	細	生	活	た	と	と	
し	し	活	す	慣	り	ま	ア	う	か	ま	の	死	た	と	と	
変	さ	ら	習	た	や	さ	せ	漁	山	生	活	た	の	と	と	
ろ	さ	し	た	り	の	ケ	漁	狩	方	は	死	た	の	と	と	
ら	ご	止	し	し	の	た	に	と	て	は	た	の	と	と		
禁	した	た	又	た	山	に	さ	る	ア	ア	又	の	と	と		
だ	た	ア	た	る	う	り	り	す	ア	ア	の	の	と	と		
こ	つ	ま	る	よ	て	に	に	使	ア	ア	の	の	と	と		
察	か	ま	る	も	手	に	に	く	ア	ア	の	の	と	と		
ち	木	を	る	木	の	皮	に	く	ア	ア	の	の	と	と		
家	建	し	る	木	の	策	は	く	ア	ア	の	の	と	と		
材	に	し	る	材	の	く	す	く	ア	ア	の	の	と	と		
新	い	し	る	材	の	日	本	く	ア	ア	の	の	と	と		
生	き	し	る	材	の	又	語	日	ア	ア	の	の	と	と		
特	重	し	る	材	の	又	を	又	ア	ア	の	の	と	と		
自	た	し	る	材	の	又	を	又	ア	ア	の	の	と	と		

文化がし祖や、芸又要と、行と、(道)アよをす。
 した。詩は文イ必こり、へなと、(海)に語こす。
 んた。事と家アがたな。校きす。北はな又のこす。
 せし叙を言は境をいた。「学とえるかちさイた。たのこす。
 まま雄語いに環を難し、たかおとた話アした。たのこす。
 りい(英昔)しるる奪函まと、りらご親くはまま。たのこす。
 あて(英昔)しるる奪函まと、りらご親くはまま。たのこす。
 の。はんカケ語伝て境家なよ。かかしいす。べちきし
 又す。字育工ペたをの環に継くにし度こうてなもてし
 アイで文をたエいらとす化な話を何まそのはと。除るこ和じこ
 アの、語きウてこれ話文きの語。母。たて子な辨? け、るこ和じこ
 た。たは又て、せそるをのてん又る父すい前、くをにあい、同い。
 した。にイ(話)ま、へ語語もさイお、てこのてな語をてささい、な
 しまちアお(神)しが、又又とあアらけ、ときものき又てしななさい
 てしたな伝(楽)すし、イイこばこか受ほおとたてイ策、にてしな思
 とて人がワカをてにアアるおえしをるは子い加ア策、にてしな思
 こおの豊代ユ人格由、せの違に問出てをこと、政同を生慣た
 るさ又、らいの表自たりさ又問生訪外校語しこ加、化と計てく加
 を定イかかム族代をし上展イ、先庭話学又にす家同人生、早り
 く番アた先力民の語でに発アて、は家うのイっ話国・和てべにあ

方向的に抑しつけられましてが、このことまた
 同化政策と人化する政策です。つまり、アイヌの人た
 ちを同化政策は、アイヌの民族としてこのよの文化を奪
 うことたかかれま考さ
 ち奪と和ていくな治か。た。生活の細部にあす。アとの間て
 ちみ平等明な加。さ。れるよにります。ア。その間に
 不す。花な干に、1875年、千島条約の締結の強制的
 らまさら島樺太アイが、邑てか。こ島にアイの住人のた
 千は樺太アイが、邑てか。こ島にアイの住人のた
 いまし海道な。以上
 に北海に。以上
 明それをす。

～②北海道旧土人保護法～

開拓が進み、鉄道が通って便利になると、北海道には全国各地からどんどん開拓の人たちが押しよせました。人口の増加にしたがって、いろいろな施設が建てられます。明治以前とは違って、開拓の人たちは、家族を引き連れてやってきました。子どもの数も増加し、学校も建てられました。

アイヌの人たちは、開拓が進むにしたがって、和人の生活が安定していくのは反対に、シカヤサケの捕獲が禁止されたり、食の困窮も困窮するようになります。アイヌの生活の困窮は見過ごすことができない。ほとんどの生活困窮を救うことさ

目的に、1899(明治32)年北海道旧土人保護法が制定されます。アイヌの人たちを農耕民(農家)化することと、生活の困窮を救おうとしたのです。アイヌの人たちが申請すれば、開墾する土地を与えるという内容でした。農業に向いた土地のほとんどは和人の開拓民(一人につき10万坪(330578㎡、東京ドーム約7個分)後に150万坪(4958670㎡、東京ドーム約106個分))に分け与えた後、1世帯あたり15000坪(49587㎡、東京ドーム約1個分)という農耕民にしては小さな土地を、アイヌの人たちに与えます。しかし、それらの土地には農業に向かない傾斜地や湿地などもふく

※開墾…山などをきりひらいて、畑を作ること

人このか
 のるを
 又、すそ
 アイ定は
 ア安窮
 い加困
 な生活の
 い生活の
 て生活の
 老よ。生
 なる。生
 になした
 業にとし
 農このて
 業このて
 業このて
 て、この
 い、この
 こが、あ
 老はあり
 またはも
 とも続
 らも続
 アイ又の
 規程はの
 イ又の
 ぶ又の
 教育、同
 又、まふ、短らは
 アイ老学く、か
 アのし科自簡イ差
 は、作り少年初た
 アらり、少年初た
 作よ、少年初た
 校が、(1)4年
 域校たなもは、
 地域学もは、限て
 (1)土子なと年育の
 多(1)土子なと年育の
 が学校の科し、和
 ち行く、和、人、学同
 た行く、和、人、学同
 ち行く、和、人、学同
 も行く、和、人、学同
 と行く、和、人、学同
 子た、地理、おて
 のた、地理、おて
 のた、地理、おて
 のた、地理、おて
 のた、地理、おて

～③民主主義を求める運動～

と日人た。別に(1922)なる視ひに「無減うみ」の吉現
 一、作し別(1922)なる視ひに「無減うみ」の吉現
 シた。小ま差社にさもよした市(1931)
 ラしやし落平ろに在る苦人(余結協
 グま者之部水この存とをの斗団又
 モリ動起間、全このなか別又北
 デが労を起間、全このなか別又北
 正広に、長いした新と、ア違加道
 大加に、長いした新と、ア違加道
 は、気くるとり、結し。又まがたて求立ち北
 一、本券、求めに結し。又まがたて求立ち北
 シ日なち善にがした。アし葉しんさかめ
 ラの由た善ん人まがいうそ苦復なるした。は、この困難
 グろ、自人改盛た花体いいうそ苦復なるした。は、この困難
 モご、す活もきさ全といいた。窮族(幕)こりまた人強い民
 デ代る、ら生動て「設社会る族」し菌民郎(幕)こりまた人強い民
 正年を暮が運動人創社び民まのら太のりくこのの強てす。
 大正時代にはは知「集」という人の加、ア物には、老子、
 大初めたるこす。大正時代にはは知「集」という人の加、ア物には、老子、

森竹竹市なとも文学活動をおして、アイヌ
民族復権へ取り組みました。
その後、アイヌの人たちへの差別や貧困は
なくなり、太平洋戦争へと、15年の戦争が始まると、
アイヌの人は出征しなけりませんでした。
アイヌの人は軍隊では日本の国のために
勇敢に戦い、多くの犠牲者を出しました。

第四章 先住民族の誇り —現代—

～①敗戦と新しいアイヌ協会の設立～

日本は、1945年、太平洋戦争に敗れ、連合軍の軍事的な占領下に置かれた。戦後、日本国憲法が制定され、平和憲法が作られた。この憲法は、人権を尊重し、法の支配を確立し、民主主義を基盤とする。アイヌの人々も、この憲法の下で平等な権利を享受するようになった。戦前、アイヌの人々は差別と偏見に苦しんでいたが、戦後は、アイヌの人々の生活が改善され、アイヌの人々の権利が保障されるようになった。

戦後すぐの1946年に、新しい北海道アイヌ協会と名禄生協会(1961年に社団法人北海道ウタリ協会と改称)ができて、アイヌの人々の地位や生活の向上を求めて活動を開始します。

戦後の日本では農地改革があり、アイヌの人々も農地改革の対象となり、北海道旧土人保護法(P37~P38)により、農地改革の対象として、給与地(給与地)も農地改革の対象となり、給与地は適宜に活用されるようになった。このとき、北海道アイヌ協会が中心となり、アイヌの人々の土地を手元から離れてしまふということが起こりました。

社団法人北海道ウタリ協会は、アイヌの人々

ま会設海と金を
 ざ集の北子資ら
 ま「建設」のめ
 生活して、又のめ
 し、生のにアイたが
 さ地にな、職事
 め各となに、職事
 さ内な年を、職事
 上道技術1947さや整
 向した。技開資と
 的した。たが育な
 経済し休した。策教路
 ・いま場ま対する道
 的に行作せ、社すや
 社会を同現「福対宅
 の活動共実夕ち、往
 ちの活やさウた助、ま
 ちな所置道も援ま

差
 出て
 運
 ちの
 差
 出て
 運
 ちの

会こ族法
 の総又その
 のアイ民
 協「アイ民
 会のアイ民
 協「アイ民
 会のアイ民

1. 基本的人権
 確立の絶対
 のアイ民

2. 参政権
 国会並に地方議
 会代表の議席の
 確保

3. 教育・文化
 アイ民の教育
 的項目経済

4. 農業・漁業・林業・商業
 アイ民の自立

ための整備

5. 民族自立化基金 アイヌ民族の自立化のための基本的政策の確立

6. 審議機関 国政と北海道にアイヌ民族対策
審議会を創設

この採択の後、1986年に、その時の総理大臣の中曽根康弘氏が、「日本は単一民族国家だ」という発言をしました。これに対し、アイヌの人たちは、「この国にはアイヌ民族がいる」と抗議をしました。初めに声をあげたのは首都圏のアイヌ民族の団体「関東ウタリ会」でした。アイヌの人たちが大勢で声を上げたことから、この国には、アイヌ民族がいる、単一民族国家ではない」ということが少しだけ見えるようになりました。このとき、大勢の和人もこの考えに共感して、応援しました。

② アイヌ民族の地位の向上

-20世紀から21世紀へ-

世界には、約3億人の先住民族がいます。その人たちもアイヌ民族と同じように、後からやってきた人たちに土地や文化を奪われるという共通した問題を抱えていました。1980年代になると、世界の先住民族の人たちが連帯して活動しようという機運が盛り上がりました。1990年には国際連合に集り、共通の認識を持てるように議論を重ねる行動を起こしました。そして、次のようなたえさしました。

- ① 先住民族の土地や資源を取りもどす。
 - ② 昔から守ってきた文化を守り、発展させる。
 - ③ 政治の場で意見を言うようにする。
- アイヌの人たちも、この世界の先住民族の仲間と認められ、1987年からは一緒に同じうたえさしてききました。ところが、日本政府はこの国には差別を受けている少数民族はいないという考えを押し通し、アイヌ民族の存在を認めようともしませんでした。ですが、アイヌの人たちのねはり強い主張はたんたんとして世界中に認められるようになりました。1994年にアイヌ民族で初めて参議院議員・萱野茂が誕生してからは、国会の場でアイヌの人たちの主張がきけるようになりました。このことは、新しい法津の制定運動にと、てはず

委員は、ま保文化が議新
 子り土人文お決、めと
 閣一なり又は帯が求た
 内ピと旧アイ文化付たか
 の又初道アイ文化のち部
 院た最海「北年、アイそ
 参行。た「北年、アイそ
 議又言おた。た「北年、
 1994年、アイ又きされ、
 した。1994年、アイ又き
 加国会に制定され、1997
 議員国会に制定され、1997
 しま議が1899年(1937~
 リ野語が1899年(1937~
 な重又した。法興の先内
 とてアイした。法興の先内
 み会アイした。法興の先内
 いうこの

～③アイヌ文化振興法制定後の動き～

し、設な、たま伝
 董きかにて、んり
 尊基構う。字な広
 さに機よなをにを
 化津進るととう化た。文化をなりの
 文法推れ心なよ文し又文化にの
 のの究さ中式るやま「アイヌのよ文化へ
 又この研なか儀き史り「アイヌのよ文化
 アイヌ・かち統て歴な「アイヌ又
 アす興業た伝かのには、アイヌ又
 は、て振事人、とちうには、ア
 法津化なのり、こたよ京を利の
 法文ろ又踊る人る東らもちの
 興いう又いアイ・踊る人の東らもちの
 振いう又いアイ・踊る人の東らもちの
 文化とアイいろアイ歌り又て圍うれ人ます。く
 文う人い。語。たアイも都もたのき文化く文化又な、も継承ア結
 又よ法れ。した。又行。アと首が、たのき文化く文化又な、も継承ア結
 アイ団さま。又行。アと首が、たのき文化く文化又な、も継承ア結
 ア広敗置りあり、した。アと首が、たのき文化く文化又な、も継承ア結
 前か、こまめちて儀り、あこさし
 以すたり。あは人う歌、かの化重
 に、続かからのをや情い同尊
 うす。長く問題か又育り事なにさ
 よま長問とイ教踊うきす文化
 のりかものこア化も、いてれ文
 こあ策もるの同も、いてれ文
 はは政つえ配の語たと重又
 況面るく覚年配の語たと重又
 状ためいく。かイかるが「ア
 るきこはしく。時代アな文化「ア
 るきこはしく。時代アな文化「ア
 るきこはしく。時代アな文化「ア
 るきこはしく。時代アな文化「ア

し、う」とかけ声だけですぐにできるものではない
ありません。この法律は、「文化に限られた内容にな、こい
ます。アイヌの人たちが望んでいる、民族と
してこのさまざまの権利にはふらわらない
アイヌ文化を継承してゆくには、アイヌの人
たちの権利やさまざまの票が実現すること
が必要とす。「アイヌ民族に関する新し
法津(案)」(P41~P43)にあるような施策をす
めると、アイヌの人たちの生活基
盤が確保されることと安定した取組
が、文化の継承や発展につな
がります。

～アイヌ民族の楽器～

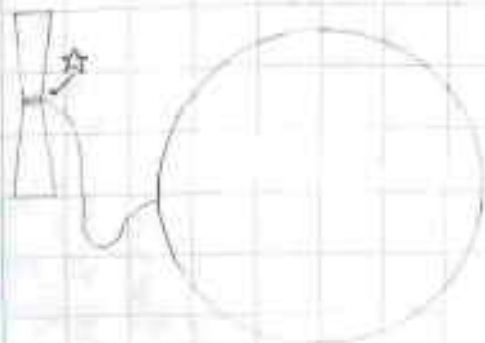
アイヌ民族は、種類は少ないですが、楽器を使っていました。

・トンコリ



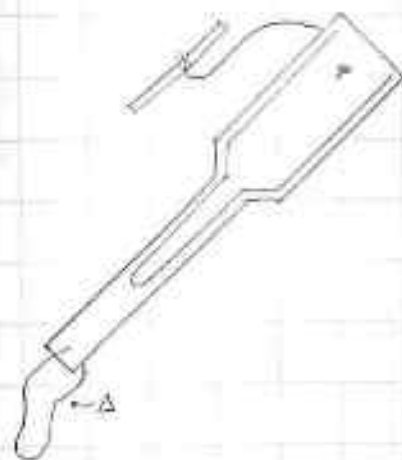
- ・樺太から北海道日本海側にかけて伝承されていた楽器です。
- ・トンコリの中には、「魂」として、ガラス玉が入っています。
- ・ことのような音色です。
- ・トンコリは、以外と軽いです。

・カチョ



- ・樺太アイヌが儀式に使っていたたいこです。
- ・☆のところを持って、両はして円をたたいた。
- ・釣のたいこと呼ばれています。

・ムックリ



- ・△は左手で持つ。左きき
きの人には右手で。
- ・アイヌの楽器の中で一
番有名
- ・ひくのかとてもたすか
しい。

アイヌ3択クイズ1

アイヌ民族のアイヌ
とは何という意味?

- ①人間
- ②北海道
- ③自然

～アイヌ民族の食生活～

アイヌ民族の人たちは、和人と同じように、肉や魚などを食べていました。最初は、狩りや漁ごと。たもの、その次は、アイヌ料理です。

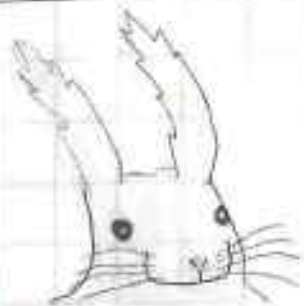
狩猟

・ユク (エゾシカ)



- ・脳ミソと内臓は生で食べます。
- ・セウリ(気管)を、チタタッ(P54)にします。
- ・肉は焼いて食べる。

・ニオウ (リス)



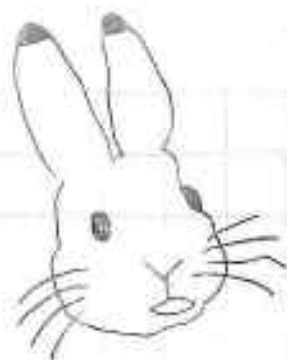
- ・皮と内臓をとり、骨と脳ミソごとチタタッ(P54)にする。
- ・脳ミソをそのまま食べることもある。

アイヌヨクタイス | 答え

①人間

アイヌとはアイヌ語で人間という意味です。

・イセボ (ウサギ)



- ・男性だけが、目玉を食べら
れます。
- ・ウサギは大きさのわりに食
べる所が少ないので、皮を
とってチタタァ (P54) にします。

・キムンカムイ (ヒグマ)



- ・肉はチタタァ (P54) にします。
- ・オハッ (P55) に入れます。
- ・内臓も食べます。

・エサマン (カワウソ)

カ
ワ
ウ
ソ
の
頭



- ・脳ミソや目玉を食べる。
- ・肉はオハッ (P55) に入れます。
- ・カワウソの頭を丸ごと煮た
料理は非常に美味とさか、
ひんぱんに食べていた。



アイヌ3択クイズ2

サケやマスなどの、
魚の皮をこきた服は
と花?

- ①チカァウル
- ②チェプル
- ③チカラカラペ

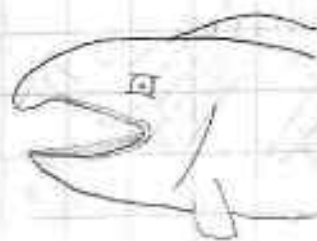
・トッカリ (アザラシ)



- ・脳ミソを食べます。
- ・アザラシは肉も肝臓も肺も一緒にオハッ (P55)に入れます。

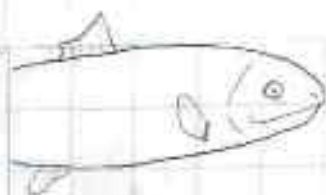
魚

・カムイチェブ (サケ)



- ・サケは、ルイペと呼ばれるこおらせたさしみのようにさねた。
- ・頭はチタタッ (P54)にした。
- ・サケの目玉は子とものおやつです。

・サキペ (マス)



- ・マスは、サケと同じようにルイペにします。
- ・他に、さけとはのようにして、保存食にします。

アイヌ語訳クイズ2 答え

② チェプル

チェプルは、チェプ (魚の)、ル (服) という意味です。

山菜

・ プクサキナ (ニリンソウ)

トリカブト



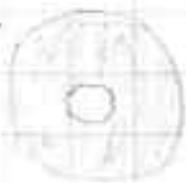
ニリンソウ



- ・ ニリンソウは、ユク(P49)や、キムンカムイ(P50)の肉のくさみさ消すために、オハッ(P55)に入れられた。
- ・ 有毒のトリカブトに似ているので注意

・ トゥレァ (オオウバユリ)

オオウバユリの団子



- ・ オオウバユリからは、こんぶんを出します。そのこんぶんから、オオウバユリの団子を作ります。オオウバユリの団子は、そのままでは美味くないのでオハッ(P55)に入れます。
- ・ オオウバユリのこんぶんは、薬としても使われます。

アイヌ3択クイズ3

シャクシャインの戦
い)が起こったのはい
つ?

- ① 1460年代
- ② 1560年代
- ③ 1660年代

・パクサ (ギョウジャニンニク)



- ・天日に当てて乾燥させてから、室内に保存します。
- ・独特の香りがあるため、香辛料になります。

・コロコニ (フキ)



- ・焼いて、皮をむいてから、そのまま食べました。
- ・非常食として、フキを乾燥させた食べ物もあります。

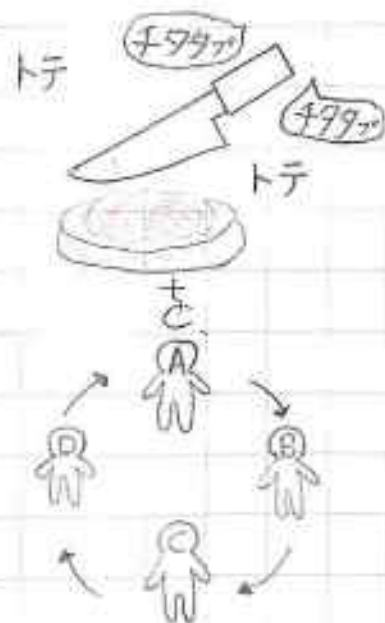
アイヌ3択クイズ3 答え

③1660年代

1669年、シャクシャインは和人に対し、単戔を起こしました。

アイヌ料理紹介

・チタタッ



変あり
はんこに

完成!!

・チタタッとは、チ（我々が）タタ（たくさんたたいた）ァ（もの）という意味。

・その名のとおり、肉や魚のたたきです。

・カムイチュプや、キムンカムイの肉さ、刃物でたたいてきざんだ物。

・チタタッのチの、我々が、という意味のとおり、何人がかありはんこにたたきます。

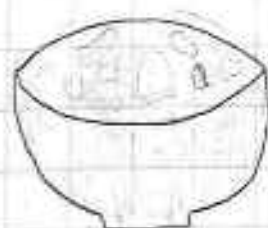
・たたくときは、チタタッチタタッ...といいながらたたきます。

アイヌ3択クイズ4

幻のたいこと呼ばれるアイヌ民族の楽器は？

- ①カチョ
- ②トンコリ
- ③ムックリ

・オハッ



- ・肉や魚、山菜や野菜などを
なべで煮こんだ料理。
- ・本来は、煮こみ汁という意
味ですが、具材とでも多い
ので、ほぼなべ料理です。
- ・中の具材によって、チュブ
オハッ(さけ汁)、カムオハッ
(肉汁)、カムイオハッ(くま汁)、
キナオハッ(野菜汁)、と、名
前が変わります。
- ・ちょっとしたアレンジは、チ
タッ(154)を丸めて入れると
つみね汁のようになります。

アイヌの択クイス 答え

①カチョ

カチョは幻のたいこと
呼ばれる樺太アイヌの
楽器です。

～個性豊かなカムイたち～

アイヌ民族のカムイ(神様)には、物志老のひとにカムイや、トイシのカムイなど色々なカムイがいます。

エサマン



ルコロカムイ



物志老のひと(神)
カワウソ

トイシの神。
危険かせま。たとき、
たをよりも早くかけつ
ける。

ユクアッテカムイ


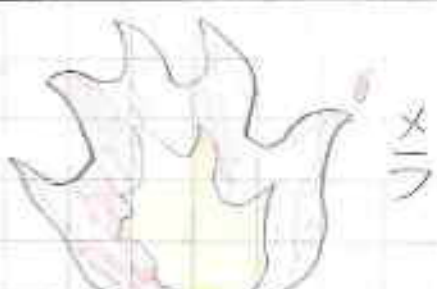
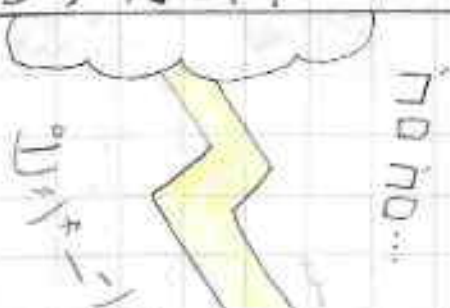
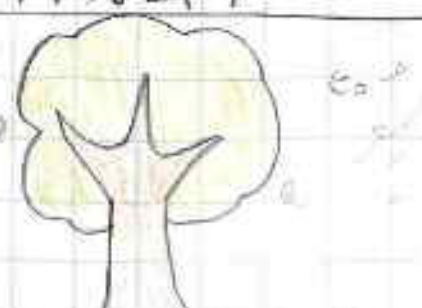


ウェンカムイ



シカをつかさどる神。
天からシカを下ろして
いると考えられた。

悪い神。人を食べたキ
ムンカムイ(P50)もウェ
ンカムイとしてあつか
われる。

<p>ワ、カ・ワシ・カムイ</p> 	<p>アペフチカムイ</p> 
<p>水のカムイ。 水はアイヌの人たちにと。なくてはならないものだ。たので、大切にされた。</p>	<p>火のカムイ。 火の老女という意味。</p>
<p>カンナカムイ</p> 	<p>シランパカムイ</p> 
<p>雷のカムイ。 カンナとはアイヌ語で「上方」という意味。</p>	<p>樹木のカムイ。 シランパカムイには性格の良いものと悪いものがある。</p>

豆知識

～キムンカムイ～

キムンカムイは、P50で紹介したように、クマのことですが、山の神ともいわれます。

～アイヌ語を覚えよう!!～

アイヌ民族の人たちは、字を持たない代わりに、豊かなアイヌ語を持っていました。

アイヌ語	日本語訳
シネ	1
トゥ	2
レ	3
イネ	4
アシクネ	5
イワン	6
アラワン	7
トゥペサン	8
シネペサン	9
ワン	10
イランカラッテ	こんにちは
イヤイライケレ	ありがとう
ヤイトゥバレノパイェヤン	さようなら
エヤイコアンテク	うれしい
アチャ	父
ハポ	母
エカシ	祖父
フチ	祖母
パイカッ	春
サッ	夏
チュク	秋
マタ	冬

～イオマンテとは～

イオマンテは、アイヌ民族の代表的な儀式で、ヒグマなどの動物を殺してその魂であるカムイを、カムイモシッと呼はれる神々の世界に送り帰す祭りのことです。

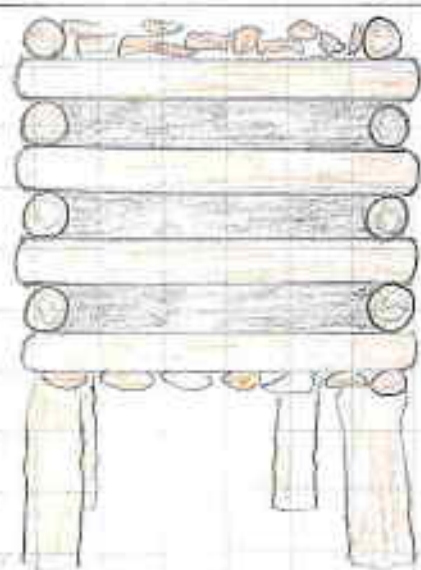
イオマンテは、主にクマで行うが、一部の地域ではシマフクロウやシャチで行います。

イオマンテ

冬の終わりに、また穴で冬眠しているヒグマを狩る獵を行います。冬ごもりしている間に生まれた子クマがいれば、母クマは殺し、子クマはアイヌコタン(P4)につれて帰ります。最初は、米汁と肉汁を混ぜたものを飲ませ、チセ(P4)の中で育てます。

しばらくして、少し大きくなると、屋外にある丸太で作ったおりにうつします。おりにうつした後は、自分たち(アイヌコタンの人たち)と同等、あるいは上等な食べ物をあたえます。1～2年ほどおりの中心大切に育てられたあと、アイヌコタンを上げてせいたいにイオマンテを行います。

イオマンテでは、歌って、おどって、たくさんのお土産を用意して、子クマの魂にお土産を持たせて神々の国に返します。



←ハペレセ。と呼ばれ
る子グマのおり

イオマンテの禁止

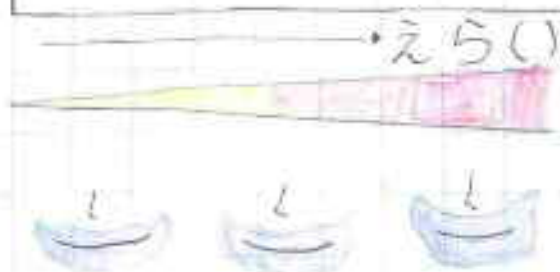
イオマンテは、「野蛮な儀式」とされ、1995年に
禁止禁にな、たが、2007年にイオマンテ禁止が
撤回撤されました。

豆知識

アイヌ民族のイレスミ

アイヌの女性は年ごろ
になるとイレスミさほ
ります。

そのイレスミはえらい
人の妻ほど大きいです。



～この本を書いたの感想～

この本を書いて、アイヌ民族の文化、和人のアイヌの人たちに対するきびしい差別など、さまざまなお知らせがわかりました。アイヌ民族のことがくわしくわかって、とても楽しかったです。

もくじ

はじめに.....P1

アイヌ民族。そもそも何?.....P2

アイヌ民族の特長.....P3

アイヌコタンについて.....P4

アイヌ民族の服装.....P6

アイヌ民族の歴史.....P12

第一章 中世のアイヌ民族.....P12

①ひろがる交易 さまざまな国や民族.....P12

②アイヌの人たちと鎌倉幕府.....P14

③コシャマインの戦い.....P16

第二章 近世のアイヌ民族.....P18

①江戸時代の北海道とアイヌの人たち.....P18

②シャクシャインの戦い.....P20

- ③和人の商人たち.....P22
- ④北前船と商人.....P24
- ⑤クナシリ・メナシの戦い.....P26
- ⑥強まる江戸幕府の蝦夷地支配.....P29
- ⑦強まる江戸幕府の蝦夷地支配 その2
.....P31

第三章 アイヌの人たちと明治維新.....P33

- ①松前藩・江戸幕府から明治維新の支配人
.....P35
- ②北海道旧土人保護法.....P37
- ③民主主義を求める運動.....P39

第四章 先住民族の誇り -現代-P41

- ①敗戦と新しいアイヌ協会の設立.....P41
- ②アイヌ民族の知位の向上
20世紀から21世紀へ.....P45
- ③アイヌ文化振興法制定後の動き.....P46

アイヌ民族の楽器.....P49

アイヌ民族の食生活.....P50

個性豊かなカムイたち.....P57

アイヌ語を覚えよう!!P59

イオマンテとは.....P61

この本を書いた感想.....P62

あとごに.....P66

～さいごに～

北海道に住んでいても、アイヌ民族のことを知らない人もいます。中には、アイヌ民族はもういないと思ってる人もいます。アイヌ民族を知らない人にも、少しでもアイヌ民族の事を話してほしいです。

ぼくが選ぶ、おすすめページト、プ3

1位…アイヌ民族の服装 P6

コMENT

木綿衣のからかめ、ちゃぶすかしがかった。1つ書くのに1時間位かかった。

2位…アイヌ民族の食生活 P49

コMENT

カワウソの頭丸ごと煮はコワイ。夢に出てきそう。

3位…アイヌ民族の歴史 P12

コMENT

和人とアイヌ、両方の気持ちになるのもいいかもしれませんね。

アイヌ文化参考書

図解 アイヌ 角田 陽一

「日本の先住民族

アイヌ民族を知らう!! ①」 知里 なつみ

「日本の先住民族

アイヌ民族を知らう!! ②」 知里 なつみ

「アイヌネノアンアイヌ」 萱野 茂

「知里幸恵とアイヌ」 知里幸恵銀のしずく記念館

「アイヌ民族：歴史と現在」 小学生用

「アイヌ民族：歴史と現在」 中学生用

「アイヌ民族：歴史と現在」 中学生用

「ゴールデンカムイ①～⑭」 野田 サトル

アイヌ民族について

—アイヌ民族の歴史や文化—

発行日

2018年8月16日

著者

遠藤有馬

発行人

遠藤有馬

